

テーマ展「茶壺—武家の美意識—」展示作品リスト

番号	指定	名称	作者	数量	時代	所蔵
茶壺誕生						
1		喫茶往来	伝 玄恵 著	1冊	室町時代成立、 安永8年(1779年)刊行	当館(井伊家伝来典籍)
武家の美意識と茶壺 ～収集と賞翫～						
2		褐釉四耳壺		1口	中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
3		君台観左右帳記	伝 能阿弥 著	1冊	室町時代成立、 江戸時代後期刊行	当館(井伊家伝来典籍)
4		珠光一紙目録	山上宗二 著	1冊	桃山時代成立、 江戸時代後期写	当館(井伊家伝来典籍)
5		太閤記	小瀬甫庵 著	1冊 (22冊の内)	寛永4年(1627)成立、 万治4年(1661)刊行	当館(井伊家伝来典籍)
6		源流茶話	藪内竹心 著	3冊	江戸時代中期成立	当館(井伊家伝来典籍)
7		緑褐釉四耳壺		1口	中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
8		小堀遠州書状 井伊直孝宛	小堀遠州 筆	1幅	江戸時代前期	当館(井伊家伝来資料)
9		褐釉四耳壺		1口	中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
10		茶道筌蹄		5冊	文化13年(1816)成立、 弘化4年(1847)刊行	当館(井伊家伝来典籍)
11	重文	玩貨名物記		1冊	万治3年(1660)	当館(彦根藩井伊家文書)
12	重文	千松館保管器什台帳十 茶器之部		1冊	大正時代	当館(彦根藩井伊家文書)
13	県指定	木保守長書状写		1通	元禄11年(1698)成立	当館(木保清左衛門家文書)
14		三彩宝相華文五耳壺		1口	中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
15		三彩宝相華文五耳壺		1口	中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
参考		花鳥図	曹明周 筆	2幅	中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
16		瀬戸四耳壺		1口	桃山時代	当館(井伊家伝来資料)
17		瀬戸春慶手四耳壺		1口	桃山時代	当館(井伊家伝来資料)
18		瀬戸鉄釉煎餅手四耳壺		1口	桃山～江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
19		瀬戸薄屋藤四郎壺		1口	桃山時代	当館(井伊家伝来資料)
茶壺道中と茶壺						
20		御茶入日記		2点	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
21		宇治茶詰年々請下留		1冊	享和3～文政7年 (1803～24)	当館(彦根藩大久保家文書)
茶会と茶壺						
22	重文	茶湯をりをり草	井伊直弼 筆	1冊	江戸時代後期	当館(彦根藩井伊家文書)
23	重文	彦根水屋帳	井伊直弼 筆	1冊	江戸時代後期	当館(彦根藩井伊家文書)
24		茶臼		1基	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)
25	重文	石州流茶壺口緒結形覚書	真野明美 写	1冊	弘化2年(1845)	当館(彦根藩井伊家文書)
26		茶壺蓋結緒雛形		1式	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)
27		茶壺口覆・飾緒・網		1括	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)
28		壺飾之書		2冊	江戸時代後期	当館(井伊家伝来典籍)
29		和歌懐紙「くまのなる…」	井伊直弼 筆	1幅	江戸時代後期	個人

## 写真解説

### 1 褐釉四耳壺 1口 (作品リストNO.2)

口径11.3cm 底径14.2cm 高38.2cm

中国・明時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

茶葉の保管や運搬に用いられた茶壺。中国南部で制作され、もとは香辛料などを貯蔵するための壺でしたが、日本にもたらされた後に茶壺に転用されました。ルソン島(現在のフィリピン)を経由して日本に輸入されたため、呂宋壺とも呼ばれます。



底部花押



本作は、肩に四つの耳がついた四耳壺で、暗灰褐色の素地に褐色の鉄釉を掛けて焼き上げており、たつぷりと掛かった釉葉の艶やかな色味と、大ぶりなボリュームのある形が見どころです。本作の底には、江戸時代前期の大名で、下総国古河藩主永井直勝(1563~1625)や、毛利元就の孫で長門国長府藩主の毛利秀元(1579~1650)のものと推定される花押が記されており、諸家を経て井伊家に伝来した茶道具であることがわかります。

### 2 緑褐釉四耳壺 1口 (作品リストNO.7)

口径10.5cm 底径12.6cm 高31.3cm

中国・明時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

### 3 小堀遠州書状 井伊直孝宛 1幅 (作品リストNO.8)

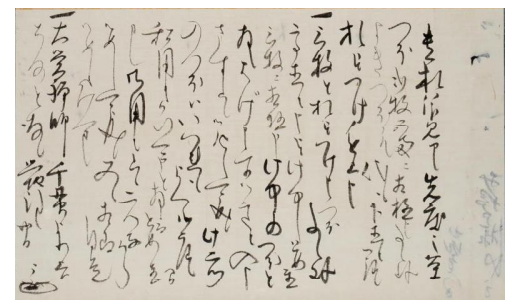
本紙 縦28.7cm 横46.6cm

江戸時代前期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

中国で制作され日本にもたらされた茶壺と、これに添って伝来した書状。茶壺の表面には、やや淡い緑味のある釉が掛かっており、その全面に、蛇の皮目に似た蛇褐釉と呼ばれる白い斑文が生じています。茶の湯では、このような変化に富んだ釉色は景色と呼ばれ、鑑賞の対象とされてきました。

書状は、大名茶人小堀遠州(1579~1647)が井伊家2代直孝(1590~1659)に宛てたもので、緑褐釉四耳壺(作品リストNO.7)を含む2つの茶壺を斡旋する内容です。一方は金大判2枚と小判5両、他方は金3枚の値を付け、「3枚の方は釉が剥げているので、気に入らなければお返し下さい」と述べ、「いずれも良い品で自分用を買って留め置いています、2つ合わせていかがですか」と勧めています。この緑褐釉四耳壺の背面には大きな釉剥げがあるため、金3枚の茶壺に該当すると考えられます。



4 三彩宝相華文五耳壺 1口 (作品リストNO.14)

口径15.5cm 底径17.6cm 高29.4cm

中国・明時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

中国で制作され、日本に舶載された茶壺です。胴部中央部には宝相華、下部には蓮弁の模様が、貼花という文様貼付の技法によって表されています。彩色には、鉛釉を掛け分けて低火度で鮮やかに発色させる三彩の技法が用いられています。

三彩は、唐代(618~907)のものがよく知られていますが、本作は、明代(1368~1644)に制作された作品で、「交趾焼」と呼ばれるものの一種です。これは交趾(現在のベトナム)が産地と考えられていたことによる名称ですが、近年の研究により、中国南部で制作されたものだということが分かってきました。交趾焼では、小型の合子を香合に転用したものがよく知られていますが、本作のような大ぶりの作品は多くは知られていません。この茶壺は、交趾焼の多様な姿をうかがわせる希少な優品と言えます。



5 御茶入日記 1点 (作品リストNO.20)

縦17.2cm 横14.3cm

江戸時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

葉茶を茶壺に詰めた際に、茶銘や内容量、日付などを記入して壺の収納箱の蓋裏に貼り付けた「茶入日記」と呼ばれる書付。緑褐釉四耳壺(作品リストNO.7)の収納箱に貼り付けられたものです。末尾には、詰主として、代々井伊家に茶を納めた宇治の茶師、酒多宗有の名が記されています。



6 石州流茶壺蓋結緒雛形 一式

(作品リストNO.26)

各段 縦21.2cm 横42.5cm

江戸時代後期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

茶壺の口は、裂地でつくった口覆をあて、口緒という紐で結んで飾られます。本作は、紐で飾り結ぶ際の形を分かりやすく示した雛形です。茶の湯の流派の一つで、武家の茶として知られる石州流に伝えられた飾り結びの形式であることが収納箱に記されています。

三重箱の各段に三種、計九種の雛形が収められ、それぞれに結び名を示す付札が添えられています。図版はその2段目で、右から「長緒華鬘」、「長緒二重総角」、「長緒藤」の雛形。いずれも複雑で華やかな結びです。

